

平成28年度 東京支部エクスカーションご案内

今年は、身延山久遠寺の枝垂桜見学と武田神社参拝の日帰りバス旅行を計画しました。
ご家族を含め奮ってご参加ください。

1. 日 時：平成28年4月9日（土） 午前8：30集合
2. 集合場所：東京駅近辺（追って詳細お知らせします）
3. 募集人員：先着順40名
4. 参加会費：会員及び同伴者5,000円～7,000円、非会員及び同伴者はプラス1,000円
5. コース概要：
東京駅9：00頃発→（途中休憩）→久遠寺（自由参拝）10：30～13：00→
田中屋（昼食）→武田神社（自由参拝）14：30～15：00→桔梗屋（買い物）→
（途中休憩）→東京駅19：00頃着
6. 申込方法：下記幹事にメール又は電話でお申込みください。
お申し込み時に、卒業年次、メールアドレス、電話番号、同伴人数をお知らせください。
7. 申込先：M47 松浦明人 matsuura.akito@showa-aircraft.co.jp 090-8009-8067
A47 平松 充 hiramatu@arch.aisei.co.jp 080-1337-7302
D44 岡本利郎 t-okamoto-happy@tcn.ne.jp 03-5817-4381
A55 一瀬賢一 ichise.kenichi@obayashi.co.jp 042-495-0978
D① 馬場順一 Junichi.Baba@nsg.com 03-5443-9487

『ごきそ』電子化のお知らせ！

名古屋工業会では、会員の皆様から『ごきそ』の保管方法、現状のスマートホーンの普及もあり、外出時でのスマホ・タブレット等での閲覧などの便宜を図るようとの要望を受け、『ごきそ』の電子化を進める準備を行っています。

現在、新年度からの電子化を目指し、ホームページにおいて過去の『ごきそ』の閲覧が可能なようにしていますが、より見やすく、便利な形として電子化を始めたいと考えております。

これにより、省資源、長期的な財務基盤の整備にも充当することが可能となります。

会員の皆様からのご意見・ご要望等を参考に改善を行いながらより見やすい『ごきそ』電子版を制作したいと考えていますので、皆様の要望・ご意見等をお寄せ願います。

今後、電子版への移行については、従来の紙による『ごきそ』送付から、電子版への移行の希望を個々にお聞きし対応したいと考えております。

順次、お知らせをさせていただきますのでご確認願います。

なお、ホームページの閲覧は、パソコン等の検索機能により名古屋工業会を検索願います。

【ご意見・ご要望の宛先】 ファックス：(052) 732-5298 電子メール：gokiso@lime.ocn.ne.jp

表紙写真説明

「伊良湖の日の出」

撮影者 名古屋工業会事務局

【表紙写真の提供のお願い】 「ごきそ」の表紙を飾る写真（たて長版）をお待ちしています！

新年挨拶

新年のご挨拶

理事長 水嶋 敏夫 (M42)



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様、ご家族様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

名古屋工業会は全学同窓会組織としての役割を果たすべく取り組んでおりますが、日頃より会員の皆様には多大なご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年11月には母校の創立110周年を記念して第1回ホームカミングデーが名古屋工業大学と共催で行われました。

全国から久し振りに母校を訪ねられた卒業生も沢山おられましたが、懐かしく思われた方、そして学生達の生き生きとした成果発表を聞き、大学の進化した姿を頼もしくご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今年も秋に第2回ホームカミングデーが開催される予定でございますので、去年は都合があって参加できなかった方々に呼びかけ、一人でも多くご参加をいただき、母校への関心を深め、名工大ファンの輪を広げて欲しいと思います。

さて、工業会は「会員相互の親睦」をはかるため、会員の皆さんへのサービス向上と相互親睦を活性化するための取り組みを進めて参りました。

昨年、私は日程の調整をしながら可能な限り多くの支部総会に出席させていただきました。全国にみえる多くの先輩、後輩の皆さんとお目にかかることで、貴重な話し合いの機会を沢山得る事ができたと考えています。

ご高齢ながらもなおご壮健な大先輩の方々にお目にかかり、私自身も良い刺激をたくさん受ける事ができましたし、一方では、支部長はじめ支部役員の皆様の支部活動を運営されるご苦労

がよく分かりました。

昨年は工業会創立100周年になりましたが、次なる100年に向けて、工業会の永続的な活動を実現するには、全国の各支部で聞かせて頂いたご意見を踏まえ、今後毎年着実に増加し続ける会員の方々の名簿の整備・維持や、計画的な財政運営など、運営委員会を通じて速やかに課題解決していく事が急務であると、改めて実感しております。

さて、昨年初めて取り組んだ「会員証」の発行により、工業会への帰属意識を再認識された方も多くみえたと思います。

今後は、会員名簿のメンテナンスの道具としても活用して参ります。また、会員優待制度の拡充を全国的に進めていきたいと思いますので、各支部でもご検討をお願い致します。

次に、会誌「ごきそ」は本年春より「紙」での配布をやめて、電子化したいと考えており、工業会ホームページの会員専用画面からご覧いただくようにしたいと思いますので、省資源と経費節減の観点でご理解とご協力をよろしくお願い致します。

工業会の会員数は、各支部の皆さんが積極的に勧誘して下さったおかげで、ここ1～2年で300人を超える卒業生が終身会員となり、1万3千人を超える会員規模になりました。

しかし、卒業生7万人を考えれば、まだまだ未加入の既卒者が多いのは事実です。

皆さんのご努力に心から感謝致しますとともに、今後ともこの活動を根気よく続けたいと思いますので、お声掛けをお願い致します。

今年3月に学部を卒業する学生の90%以上が入学時から既に工業会の会員であり、これから各支部の会員数は毎年確実に大きく増加していきます。

工業会各支部においても、若返りを図る良いチャンスとして、若い会員が参画し易い企画も考えて頂き、支部活動の活性化にもつながっていく事を願っております。

さて、母校は昨年鵜飼学長のリーダーシップの下で「名工大版理工系人材育成戦略」を発表されました。

学部と大学院前期課程の6年一貫教育課程の新設、学問体系と社会ニーズに対応した学科・専攻の再編成、海外留学などグローバル教育の充実など、未来志向の教育改革が本年度より具体的にスタートする年であり、我々としても大いに期待している所です。

これからも「耀く、ますます耀く母校を願って」工業会は、大学支援を活動の最重点とし、大学の研究活動や国際交流を積極的に支援して参りますが、母校の特色は産学官が連携した「実践的工学エリートの育成」であって、我々OBとしての支援を一層充実させる事が重要と考えます。

『名古屋工業大学研究協力会』とも連携して、今後検討して参りますので、皆様のご協力をお願いします。

最後にもう一つ皆さんにお願いがあります。今年は名工大の「講堂」が建て替えられ、今後は各会館などのリニューアルも計画されています。

我々OBができる母校への恩返しの一つの形としては、教育・研究環境の整備充実を目的とした名工大基金への寄付があります。

会員の皆様方には今後とも母校を、後輩たちを温かく見守って頂くとともに、機会を捉えた寄付へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

本年が会員の皆様方にとりまして実り多き年になる事を祈念致しますとともに、今後とも工業会活動の活性化に向けたご協力と積極的なご提案をお願い致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年挨拶

新年のご挨拶

名古屋工業会 会長

国立大学法人名古屋工業大学 学長

鵜飼 裕之



新年あけましておめでとうございます。
名古屋工業会会員の皆様方には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

伝統を受け継ぐもののひとつに学風があり、それを代々伝えているのは世代を超えた同窓生の繋がりです。昨年11月に、本学で初めてとなるホームカミングデーを名古屋工業会と共催で開催し、240名を超える同窓生がご参加くださいました。建物も実験・研究設備も随分と様変わりしましたが、見学に訪れた研究室や在学生との交流を通して、名工大の気風を懐かしく感じられた方も多かったのではないのでしょうか。昨年も、ロボコン、ソーラーカー、フォーミュラカー、鳥人間など名工大らしい技術を活かした課外活動で立派な成績をあげました。もちろん、運動・文化の課外活動でも大いに活躍しています。こうした在学生の就学、学生生活に対して、名古屋工業会会員の皆様から多大なるご支援とたくさんの熱いご声援を頂きましたことを、改めて厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、学長に就任して掲げた将来ビジョン「伝統を礎に、新たなグローバルステージへ」と向かう大学改革プランの実現に教職員一体となって取り組んだ一年でした。国立大学では初めてとなる産学官教育連携会議を設置して産業界・官界の声を直接お聞きし、それに基づいて「中京地域産業界とともに創る『名工大版理工系人材育成戦略』」を策定、教育改革に邁進してまいりました。科学技術に対する多面的な視点と新たな価値観をもった創造的な人材を育成する学部・大学院修士課程6年一貫の創造工学教育課程と新学科・新専攻体制で、未来を見据えた工学教育を本年4月からスタートします。昨年、国立大学の人文社

会系学部の見直しに関する文科省通知に端を発して、学界のみならず産業界からも、改めて人文社会系学問の重要性が強調されました。本学がめざす「実践的工学エリート」は、専門分野の知識と技能のみならず、日本の歴史と風土、文化、社会の仕組み、そして世界を知るための幅広い教養を身に着け、自らの人生観、世界観をしっかりと備えた人材です。本学には、単に実践的な技術のみならず、技術の価値の背後にある文化、哲学を身につける教育が気風としてあります。その伝統を受け継ぎ、豊かな教養と感性を醸成する教育環境の充実に一層磨きをかけてまいります。

研究組織についても大幅な見直しに取り組みしました。「材料科学フロンティア研究院」、「情報科学フロンティア研究院」を設置して、科学技術の基盤を支える材料、情報分野での基礎的、先端的な研究をさらに深化させていく一方で、産学官連携共同研究の推進強化により、それらの基礎的研究を「エネルギー」「ライフ」「人工知能」でのイノベーション創出へと橋渡ししていく全学一体的な研究体制を構築しました。材料と情報という異分野の融合により、全く新しい物質・材料の創製に計算科学・データ科学を活用する「マテリアルインフォマティクス」の分野において研究プロジェクトが生まれています。さらに、あらゆる工学分野の統合一体的な研究体制により、モノのインターネット化（IoT）によって可能となった製造業の高度情報化に資する新技術の展開も大いに期待できます。また、両研究院では、MITなどの海外著名大学の多数の外国人教員を本学教員として雇用、委嘱することで、国際的な教育研究ネットワークを構築しています。一方、産学共同研究

の契約件数については、平成26年度初めて250件を超えましたが、今年度はそれを上回る勢いで増加しています。こうした国際共同研究および産学官連携研究などの研究活動を通じて、本学の教員の研究力は着実に向上しています。本年は、大型競争的資金、産学連携研究の獲得に努め、より一層研究力を強化、発信してまいります。

工学のさらなる発展にとって、女性の活躍は必要不可欠です。本学では女性限定の教員公募、女性の卒業生を本学女性教員の研究支援として採用するためのOGバンクの設置など女性の活力を教育研究に生かしていくためのポジティブアクションを推進しています。また、昨年の入試では女子学生の入学比率がはじめて16%を超

えましたが、本年は、さらなる女子学生の増加をめざして女子推薦枠を拡大します。こうした男女共同参画の推進のみならず、外国人教員、留学生、社会人学生など多様な人材が協働するキャンパスをめざしたダイバーシティ環境の整備は、本学のグローバル化にとって重要な要素です。

本学は、本年、創立111年を迎えます。秋には本学の新たなスタートを期した新講堂も竣工し、ホームカミングデーにあわせて記念のイベントも予定しております。名古屋工業会会員の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いして、新年のご挨拶とさせていただきます。



産学官教育連携会議



女子学生のためのテクノフェスタ



学長主催留学生懇談会



男女共同参画推進センター

紀行

第1回名古屋工業大学 ホームカミングデー

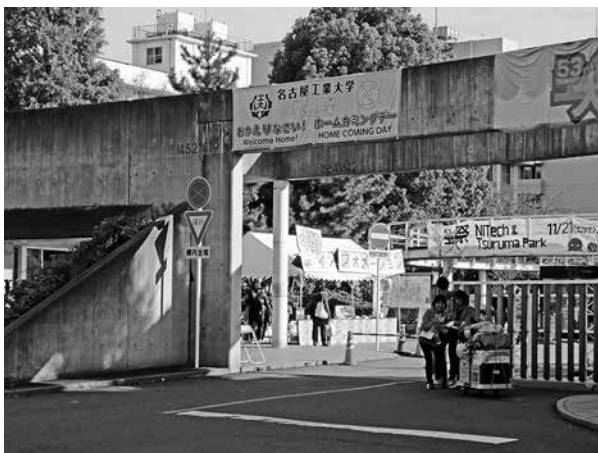
記：野村 幸宣 (C54)

我が母校は今年で創立110周年を迎えます。これを記念して、11月21日卒業生を大学祭「工大祭」に合わせて、迎え入れるイベントが開催されました。岡山支部を代表して参加してきましたので、簡単にご紹介します。

新しくなった校門、そしてその中にそびえたつ校舎に圧倒されます。



正門からの2号館



大学正門

校舎は近代的な高層ビルになっているとともに、古い年代の校舎には徹底的に施工された耐震工事が印象的です。



2号館正面



11号館前の並木



19号館



16号館

学内見学ツアーに参加して、共同計測センターや図書館を案内していただきました。

レーザーや放射線を照射して、成分分析を行う装置など（主に化学系が利用）

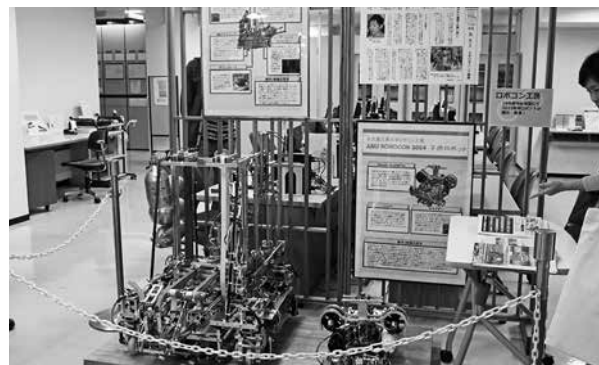


図書館はゆったりした空間で、パソコンルームまであります。

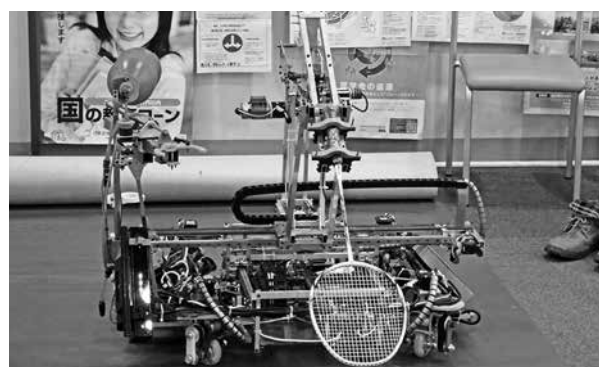


ロボコンは昨年度日本一、今年はバドミントンができるロボットです。

鳥人間飛行やスポーツカーレースにも挑戦しているそうです。



ロボコン工房



ロボコン工房（今年のテーマ：バドミントン）

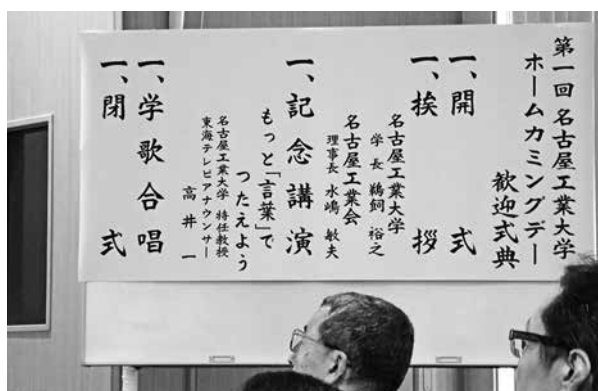


人カプロペラ機



フォーミュラカー

ホームカミングデー歓迎式典では、学長、名
工会理事長が挨拶され、高井特任教授が記念講
演されました。高井特任教授は東海テレビの有
名なアナウンサーですが、学生のプレゼン能力
向上のため、今年度から採用されたそうです。
スマホ時代の学生には、言葉や表情でのコミュ



鵜飼学長



水嶋理事長

ニケーションを鍛える必要があるそうです。(司
会は部下の女性アナでした)

式典のメは、やはり校歌斉唱です。合唱団の
リードで高らかに響きわたりました。



松井アナ



高井特任教授



合唱団



(同窓会館です)

トピックス

ソーラーカー部の活動とその支援

ソーラーカー部 副顧問

IMRA AMERICA INC. (名工大・駐在)

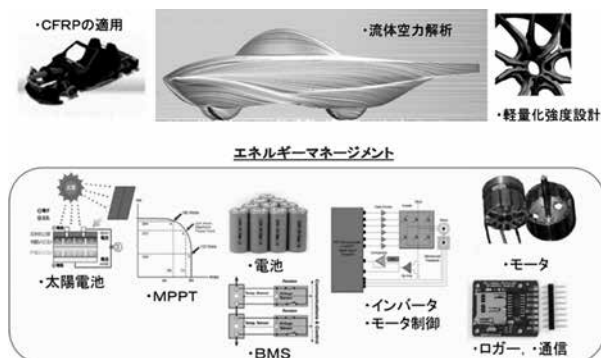
パワーエレクトロニクス研究部

部長 城ノ口 秀樹 (E55) IEEE Senior Member

工業会のご支援によりソーラーカー Horizon Z がWSC2015 (world Solar challenge世界大会) でオーストラリア大陸3000km (札幌-福岡の往復) を5.5日間 (平均速度は66km/h) で完走しました。初出場での完走は、国立大学としては初めての快挙です。ここではソーラーカー部の活動に対する思いを述べたいと思います。

[ソーラーカーに必要な技術]

テクノロジーという言葉をよく耳にすると、逆になんかサイエンスという言葉が聞かなくなりました。サイエンス研究にも計算機をはじめとするテクノロジーが必須でありサイエンスを包含してしまっているかのようです。Google, Apple, Tesla motorsもテクノロジーの会社です。テクノロジーはシステム化技術であり、名工大 (Nagoya Institute of Technology) が得意とする分野であると言えます。一方、ソーラーカー技術に目を向けますと電気・電子工学や機械工学の知識が要求されます。また、レースでは理論と実践の乖離を狭める効果もあり、世界中の工科系の大学、学部が参戦しています。刻々変わる気象も織り込んだレースマネジメントを行わなければならない戦術的思考やマネジメント能力も要求される



など全体最適化のシステム能力がリアルタイムに求められます。

テクノロジーを極める名工大にとって最もマッチし部活動と言えるのではないのでしょうか。

[ソーラーカー部の歴史]

ソーラーカー部は1992年に同好会として梅野現名誉教授によって設立されました。世界的にクリーンなエネルギー、クリーンな車の要求が高まった時代背景が考えられます。

その年には鈴鹿サーキットで「ソーラーカーレース鈴鹿 (第1回大会)」、「ソーラーカーラリー in 能登」が開催されました。その後、ソーラーカー部は神保現名誉教授に引き継がれ、2011年4月からは江龍先生 (現副学長) が顧問となりました。その折、学生ソーラーカー活動を世界的に支援するIMRA AMERICA INC. (大光社長) の計らいにより世界屈指のミシガン大学ソーラーカーチームの来訪が実現しました (2011年11月)。このことがソーラーカー部員の思いを奮い立たせ、学生3名がWSC2013の視察に出向き、そこで今回のチャレンジのイメージを作りました。



一方、私がソーラーカー部を支援するようになったのは江龍先生との偶然の出会い (2012年

夏)でした。最初の面談で「ソーラーカー部を世界の舞台に立たせる」ことで意気投合しました。時間軸を考えると自分一人では実現できないことは明白でモノ作りに長けた羽藤先生(芦屋大学・自動車教育)の協力を提案、ご本人の快諾、大学からの承認を戴きHorizon Zの開発が現実のものとなりました。

なお、私は1992年当時東芝に所属し関西電力・研究所からの依頼でソーラーカー駆動システムを開発していました。その一部は関西電力様のご厚意により芦屋大学に提供され、私が芦屋大学の羽藤先生と知り合うきっかけとなっています。

[新車開発]

開発費用の制約もあり2014年度は新規車両製作、2015年度は電気系(太陽電池パネル、モータ、MPPT(太陽電池のコントローラ))を一新することで進めました。また、「もう後はない(最後のチャンス)」として開発コードネームを「Z」としました。

羽藤先生のアドバイスを受けつつも学生が主



体の設計、モノ作りの面で羽藤先生に協力をいただきました。車体の色は開発当初(2013年)はオレンジでしたがWSC2015出場に際して学内コーポレートカラーであるブルーに変更、今後「名工大カラー」として採用していきます。

[結果]

2014年鈴鹿の天候は曇り、太陽電池性能が劣るわれわれにとっては好都合で世界クラスで2位を獲得。2015年は3位入賞を果たしました。

鈴鹿での結果を背負いWSC2015に出場しました。



[WSC出場に際して]

レースは1週間ですが事前準備、展示、表彰のイベントがあり、約2週間、授業を休む必要がありました。この学生の不安も鶴飼学長をはじめとする大学当局の理解、協力により払拭されました。現地サポートについてはWSC経験豊富な羽藤先生、山田先生(元、呉港高校)および荒木さん(東芝)に協力をお願いし、安全を確保しました。また、アデレードからダーウィンへのソーラーカーの逆方向の移送も支援者に協力いただきました。

[WSC2015現地状況]

マシン整備・車検・予選

学生がダーウィンに到着するとすぐにコンテナからマシンを降ろし車検に向けて最終のマシン整備を開始。周りから車検に関する情報を集め万全の体制で臨んだものの機械と電気で数項目不合格。現地で部品を調達、徹夜覚悟で指摘項目を改修し、無事車検に合格しました!

1日目（スタート当日）——

待ちに待ったレース開始！しかしスタート地点でマシンが止まってしまうというトラブルが発生。素早く調整し再スタート。目覚ましい快走！遅れを取り戻すかのように10チーム以上追い抜き、クラス9位まで順位を上げました。走行距離を着実に伸ばして550km地点でキャンプを張りました。



2日目——

走行中、突然、強風によりアッパーボディが吹き飛ばされるという重大なアクシデントが発生！ソーラパネルの一部が損傷するも1時間ほどで応急修理を完了、オフィシャルの安全性の



チェックを受け、なんとか走行再開。テナントクリークのコントロールストップに到着。マシン整備や充電準備を考慮しここでキャンプすることにしました。

3日目——

この日はマシンに大きな問題もなく、天気も良かったため70～75km/hで巡行しながらも電欠になることなく、理想的な走りができました。キャンプ地もキャンプし易いレストエリアに到着できるように、巡航速度を考えながら17時をむかえ、快適なキャンプをすることができました。



4日目——

レース2日目にトラブルで停止していた1時間を取り返すべく比較的速い70～75 km/hで巡行しました。難しいエネマネに奮闘するも、後半でバッテリーが枯渇、16時50分頃に停止、そのままキャンプイン。この日の夜の星空は素晴らしく、さまざまな意味で印象に残る日になりました。



5日目——

大会5日目、朝夕の充電でバッテリー電圧は定格付近まで回復しました。クーパーペディーまでは消費電力を抑えた走行で充電をしながら走り、その後65km/h巡行で合計490kmほど走行しました。おいしい夕食を食べ、最後の夜を過ごしました。



6日目（ゴール当日）——

最後のマシン出発作業を終えました。南オーストラリアは例年悪天候で天気を心配するも幸運にも快晴。ついにアデレードに到着！総距離3022km初出場で完走！平均速度66km/h、Michiganチーム、Nuonチームと一緒に喜びました。



【おわりに】

サイエンスは一人でも研究できるかも知れませんが、テクノロジーはそうは行きません。いろいろな人との協力が必要になります。その意

味で学生は、支援者、部品サプライヤ（支援会社）、ドライバー、OB、現地では海外の学生、エンジニア、研究者などいろいろな人との交流を通し、制約条件が多い現場での対応能力を体験しました。今回のWSCにはESSメンバーも参加しておりエンジニアのグローバル化（英語による技術交流）の重要性も体験することが出来たと思います。これら経験は今後の技術者人生に大きな自信に繋がると思われます。このような活動が維持、発展できるよう支援を続けたいと思います。

梅野先生により、当時太陽電池の研究を実用化に向けようと創設されたソーラーカー部ですが、フロンティア技術を搭載していく精神は、これからも我が校のソーラーカー活動の背骨としていくべきと思います。世界レベルで競合するためには、超低空力車の開発、超軽量・高強度の材料（次世代 CFRP）、太陽電池、パワーデバイス等の研究開発が必要になり、より多くの学内の実研究との連携を強化すべきと思います。

最後になりますが、工業会に所属されます皆様には、一層のご理解、ご協力（ご寄付）を宜しくお願いします。



学生コーナー

(名工大新聞部提供記事)

ソーラーカー部、オーストラリア縦断

記：川居 拓馬（電気電子工学科4年）

ソーラーカー部が10月18日から10月25日にかけて行われた大会で、オーストラリアを縦断し見事3000kmを完走した。3000kmとは日本列島がまるまる収まってしまう距離であり、それを太陽のエネルギーだけで走り切った。

ソーラーカー部が参加した大会Bridgestone World Solar Challenge 2015は二年に一度行われる大会であり、マサチューセッツ工科大学やデルフト工科大学など世界各国の大学が出場する。今回の参加チームは29チームであり、完走したのはその中でも20チームである。名工大は大会初出場でありながらその快挙を達成した。順位は16位であり、かかった時間は50時間42分と六日間にわたる戦いであった。

Bridgestone World Solar Challenge 2015に出場するにあたってはソーラーカーにかかる資金がレースを大きく左右する。名工大は初出場で他チームに比べ資金に乏しい中、車体の製作において、型を切削し炭素繊維材料を貼り込む高コストで時間のかかる一般的な手法ではなく、工夫して手作業でペーパークラフト的に曲面をつくる超低コスト省時間で製作する手法を用い、尚且つ完走を達成することができた。

普段のソーラーカー部はというと、マシンの空気抵抗を減らすための工夫を設計・製作の段階から行い、天候などを想定した走行シミュレーションを行っている。そして大会では、その時々の発電量からマシンの速度を計算しレースを行っている。そうした普段の努力の積み重ねと本番の状況判断の良さが今回の完走につながったのではないだろうか。

幸いにも今回の大会ではオーストラリアの天候に恵まれ、シミュレーション時よりも速く走れたようだ。ということは運転席には相当な熱気がきいていたことになるが…。話を聞くとやはり中は相当な暑さであり、シートも軽量化を図るために座り心地の良いものではなかったという。水が常備されているため熱中症の心配はないそうだが、こうした裏の苦労もうかがえる。

もっと知っ得インタビュー！

・この大会で一番苦労したことは何ですか。

英文で書かれた大会ルールの解釈に一部誤



ソーラーカーが走行したコース

りがあり、現地で修正作業を迫られました。しかし、英語に長けたESS(英語研究会)部員に助けられ、レースを有利に進めることができました。

・大会中に強風でアッパーボディが吹き飛ばされる事故があったそうですが。

シミュレーションでは予想できなかったため驚きました。幸いにも大事には至りませんでしたが次回は強風もシミュレーションに入れて設計・製作したいと思います。そして次回の目標は完走するだけでなく上位グループに入ることです。

・ソーラーカー部から見て、近い将来ソーラーカーの普及は実現できそうですか。

ソーラーカーは既に普通の車よりもはるかに軽量です。ソーラーパネルや金属よりも軽量の炭素繊維素材が低価格になれば可能だと思います。

・名工大生に一言

ソーラーカー部はたくさんの先端技術を応用し、レーシングカー全体の設計・製作そしてレースに至るまでの全てに関わることがができる部活です。車メーカーでも味わえないような「ものづくり」の現場で活動しています、ぜひ見に来てください。

フォーミュラプロジェクト、全国3位 念願の表彰台

記：岡田 究太（電気電子工学科4年）

みなさんは今年9月に静岡県小笠山総合運動公園で「第13回全日本学生フォーミュラ大会」が行われたのをご存じだろうか。名工大のフォーミュラプロジェクトは参加校86校の激戦の中、3位を獲得し初の表彰台に上ることが出来た。表彰台は6位からだが、去年の大会では1000点中6位に0.63点届かず7位だった。去年の悔しさをばねに、一年間徹底的に設計のあいまいな部分を見つめなおし、何事においても技術的な裏付けがある設計を目指した。そんな試行錯誤の中、今大会で最も注目すべきは車両への初のウイングの装着である。ウイングは空気を制御し、車を下に押し付ける力を生み出し高速走行を可能にするが、その反面車にかかる空気抵抗を増大させてしまうというデメリットもある。

コメント [01]

ウイング試作で活躍した
機械工3年松山大地さんのお話
「ウイング装着の決断」

データ解析のソフトで計算したときにスキッドパッド（八の字旋回）の競技である程度車が早くなるというのが導入の経緯です。他大学には、すべてのコースでシミュレーションできる場所もあるのですが、そのようなソフトはありません。なので、コースの中でも比較的簡単にシミュレーションができるスキッドパッドにスポットを当てました。速くなることはわかっていましたが、本番のコースでここまで速くなるという確信はありませんでした。

コメント [02]

次大会プロジェクトリーダー
機械工3年富田崇史さんのお話
「表彰台にあがったときの気持ち」

発表は6位から発表されるのですが、表彰台ぎりぎりのポイントだと思っていたので6位で呼ばれなかったときはだめかと思いました。まさか3位で呼ばれるとは思わず、呼ばれたときはどのチームよりも沸いていました。

コメント [03]

今大会でドライバーを務めた
機械工3年高居京平さんのお話
「今大会でドライバーを務めたドライバーとしての責任感」

昨年も務めたのですが、みんなで一年間かけて作り上げた車を動かすのはやはり緊張します。走行中は、ハンドルも重く旋回する際のG



2015年度車両 NIT-13

で首の筋肉もすごく疲れます。しかし、設計から動かすところまでやらせていただけるのは本当にありがたいことです。

コメント [04]

今大会プロジェクトリーダー
機械工4年前田真吾さんのお話
「これからプロジェクトに入る人たちにに向けて」
一番このプロジェクトで面白いところは、企画から設計、評価、モノづくりの流れを自分たちで全部できることです。社会にでても、携わるのはモノづくりの一部分だと思うので、学生のうちに全部出来るというのは非常に貴重だと思います。また、単純にどれだけ早くかっこいい車が製作できるかを他大学のライバルたちと競う楽しさもあります。

名古屋工業大学フォーミュラプロジェクトでは、広くご寄附の協力を仰ぎ、活動環境の充実等として役立てることを目的として、皆様からの温かいご支援をお願いしているところです。

何卒ご寄附の趣旨をご理解いただき、お力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

連絡先は、プロジェクトリーダー 富田崇史（とみたたかし）

E-mail:nit.formula.project@gmail.com または、
電話:052-735-5629までお願いします。

SilverBacks、秋季リーグ快勝！

記：森井 伸一（都市社会工学科2年）

工大祭が開催された11月22日、東海学生アメリカンフットボール秋季リーグで2部Bリーグで全戦圧勝した名工大アメフト部SilverBacksは、2部A昇格をかけて三重大との入れ替え戦に臨んだ。

VS三重大

最初に三重大に7点先取される。タッチダウン仕返すもキックを外してしまい、6対7になる。その後、名工大が2タッチダウンをとり、19対7になり逆転する。しかし、最後の第4クォータで三重大にタッチダウンを取られて19対14となり、1タッチダウン差で逆転される危機に直面した…。最後の残り1分まで自陣のゴール前ギリギリまで追い詰められていたが、三重大の猛攻から守り切ることに成功！この瞬間2部Aリーグへの昇格が決まった。

見事、昇格を果たしたSilverBacks！しかし、チームには苦難の時代があった。2年前、秋季リーグが3部制になった時、SilverBacksは部員数不足で苦しんでいた。2・3年生が数人しかいなく、1年と4年が主体のチームでリーグに挑戦したが、2部Bへ転落した…。

これではいけないと、部員獲得のために勧誘活動に力をいれた。また、「ビンゴ大会」や「大食い大会」の企画で人を集めた。マネージャーと選手的意思疎通も課題に挙がった。マネージャーと選手がお互いの仕事についての知識が不足していた。そこも直していこうと、アメフトについての講習会を開いた。その結果、アメフトについての理解が深くなり、マネージャーの撮るビデオの質が向上し、練習の効率が上がった。練習方法も見なおした。積極的な取り組みにより、チームは立ち直った！

SilverBacksは現在も発展途上のチームだ。2年生・3年生が主体のチームで攻撃力を生かして、ガンガン勢いに乗って相手を倒していくスタイルが今年のチームの色だった。ランに加えてパス攻撃も強化した。ディフェンスもブリッツという攻撃的なサインをよく使う。

SilverBacksは春の時点である目標を立てていた。それは、1部リーグでも戦えるチームになることだ。ここはまだ通過点でしかない。



アメフトの基本知識！

試合は第1クォータから第4クォータまで！

1タッチダウンはキックを入れて7点、外したら6点！

ラグビーとの一番大きな違いは前にもボールを投げられること！

試合中はいくらでも選手交代できるから、試合に出ない人はいない！

ポジションはオフェンス、ディフェンス、キックに分かれていて、選手ごとの専門がある！

適材適所なスポーツだからいろんな体格の選手がいる！

Asian and Pacific Coasts 海岸研究室が優秀賞獲得

記：米谷 亮祐（都市社会工学科2年）

Asian and Pacific Coastsにおいて海岸研究室（都市社会工）のインドからの留学生 Sivaranjani Jayaprasadさんが優秀賞を獲得した。Asian and Pacific Coastsとは太平洋に面するアジアの国同士で海岸の整備や環境問題について技術交流する会議のことであり、150人程の現役の学生たちが3日間にわたって、3つの部門で発表をする。海岸研に所属するSivaranjaniさんはコーストエンジニア部門で優秀賞を受賞した。

Sivaranjaniさんが発表した研究の内容は、『ポアソン分布を応用した方法によって、過去と未来の事例を結びつける』というものだ。彼女は専門とする海岸工学と統計の手法を融合させ、この新しい手法を作り出した。例えば、ある地域の波高を測ったとき、ある値を超えたDegree of experience（経験度）が過去25年で3回、その次の25年で7回あったとしたとき、今までのポアソン分布では『3回』と『7回』という少ないデータからの予測となり正確ではない。このとき予測の正確さを表すpバリュー（低いほど正確）が0.16程となるが、Sivaranjaniさんの発表した方法は、統計的な方法で観測した25年分すべてのデータを利用でき、同じ計算をしたときのpバリューを0.092まで下げることが出来る。

Sivaranjaniさんは留学先を決めるときに、大学で専攻していた海岸工学を生かしたレベルの高い研究がしたいと思い、母校とパートナーシップ協定を結んでいるこの大学を選んだ。

「海岸工学の新しい視点を見つけたことが評価されて本当によかった。

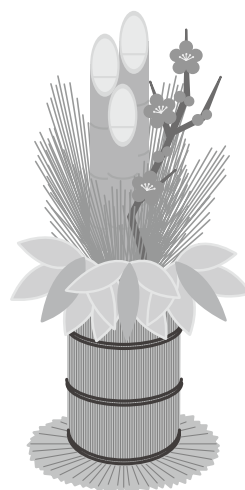
研究室の北野准教授にはデータの協力や、全国のワークショップに連れて行ってもらうなど、快く協力してもらい、感謝しています。」

と語る。

今後、この式を使うことで大雨などの気象情報を過去の事例からより正確に見出せ、災害のリスク分布なども作ることが出来る。彼女と、この研究成果のこれからの発展にも期待したい。



日本の生活を満喫するSivaranjaniさん



新聞記事コーナー

中日新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2015/10/19	朝	9	名古屋工業大学	—	東海学生リーグ ハンドボール入れ替え戦、弓道
2015/10/20	朝	13	名古屋工業大学	—	ホームカミングデー 名古屋工業大
2015/10/20	朝	13	名古屋工業大学	—	名古屋工業大学管弦楽団定期演奏会
2015/10/20	朝	13	名古屋工業大学	—	ただ今就活中 多忙な理系の相談役 体験者が就活キャリアサポーター
2015/10/21	WEB	—	名古屋工業大学	—	ただ今就活中 多忙な理系の相談役 体験者が就活キャリアサポーター
2015/10/28	朝	18	男女共同参画推進センター	—	女性技術リーダー養成 16人卒塾式 名工大
2015/10/28	朝	7	田中 力	卒業生(ES①)	ミツカン、田中力氏(新社長)
2015/11/10	朝	18	名古屋工業大学	—	sports愛知 アイスホッケー 中部学生アイスホッケー選手権
2015/11/11	朝 西濃版	20	森本光香	在学生	地元の良さを見つける “垂井本”で書評合戦 町図書館 8人がPRし合う
2015/11/12	朝 東濃版	—	吉村篤司	在学生	中山道東濃駅伝出場チーム(上)
2015/11/12	可児版	—	吉村篤司	在学生	中山道東濃駅伝出場チーム(上)
2015/11/12	夕	1	河辺伸二	建築・デザイン工学科	ドローンで巨大像点検 名古屋のNPO、安価に確認
2015/11/15	朝	23	伊藤孝紀	建築・デザイン工学科	名駅、栄 連携強化を 名工大でフォーラム 三蔵通に注目
2015/11/17	朝	18	岩田 彰	情報工学科	徘徊者スマホで捜索 中川で住民ら模擬訓練
2015/11/18	朝 東濃版	20	藤内紗恵子	元名工大職員	ドームやきものワールド2015 新人アーティスト展 出品者を紹介
2015/11/19	朝	23	粥川裕平	名工大名誉教授	過労死防止対策推進シンポジウム
2015/11/25	朝	26	徳田研究室	—	チーム愛忘れない FC岐阜社長、無念の退任
2015/11/26	朝	22	鵜飼裕之	学長	「政労使協」が発足 県庁で初会合、意見交換 政労使協議会 =愛知県=
2015/11/28	朝	11	黒柳 奨	情報工学科	「街角トレンド」補聴耳カバー 中部デザイン研究所が大学などの協力を得て開発
2015/11/27	夕	11	藤岡伸子	建築・デザイン工学科	「加子母学」のススメ 明治座大改修からその先へ 域学連携の知恵 後世に
2015/12/1	朝	7	佐野明人	機械工学科	第29回中日産業技術賞 知恵と技術 時代に貢献
2015/12/1	WEB	—	橋本芳宏	都市社会工学科	立体図形に触れると音声 名古屋盲学校教諭ら新学習システム開発
2015/12/1	朝	20	橋本芳宏	都市社会工学科	立体図形に触れると音声 名古屋盲学校教諭ら新学習システム開発
2015/12/1	朝	22	名古屋工業大学	—	インドと県内企業 経済交流会開く 名古屋
2015/12/3	朝	17	名古屋工業大学	—	社告 東海学生駅伝
2015/12/3	三重 総合版	—	名古屋工業大学	—	社告 東海学生駅伝
2015/12/5	朝	8	佐野明人	機械工学科	苦心と挑戦革新生む 中日産業技術賞 歩行も心も支える 今仙技術研究所 特別奨励賞
2015/12/5	朝	32	佐野明人	機械工学科	トヨタ「水素社会へ歩む」中日産業技術賞にトヨタなど技術賞の贈呈式
2015/12/5	岐阜版	—	佐野明人	機械工学科	歩行も心もアシスト 中日産業技術賞 今仙技術研究所 喜び 名古屋で贈呈式

中部経済新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2015/10/27	朝	3	岡本英二	電気電子工学科	「研究現場発」屋内位置推定の高精度化 見通し外環境にも強い新サービスを提供
2015/11/24	朝	2	徳田恵一	情報工学科	「研究現場発」徳田恵一教授 新しい音声合成方法の実用化 人間のように歌い話す機械の実現

平成27年度 東京支部総会レポート

平成27年11月7日(土) 14時30分から、東京中野の中野サンプラザにおいて、今年度の東京支部総会が開催された。今年度は160名の卒業生が参加するとともに、大学および工業会からご来賓としてお招きした鵜飼裕之学長(F52)、加藤禎人教授(D61)、水嶋敏夫理事長(M42)、内藤克己常務理事(A43)、ならびに講演をお願いした山田学教授(M63)にご列席いただいた。

土曜日開催は今年度で3回目となるが、昨年度同様、「総会」、「講演会」、「懇親会」のプログラムにしたがって進められた。

「総会」では、ご来賓およびご講演者の紹介の後、始めに今年度就任した坂井利充東京支部長(C42)が挨拶をした。次に来賓祝辞として、鵜飼学長よりスライドを用いて大学の現況と方向性についてご説明いただき、常日頃母校の情報に接することの少ない卒業生にとって、とても新鮮な内容であった。続いて、水嶋理事長より工業会の活動の状況と今後に向けての決意をお話いただいた。「総会」の最後は、坂井支部長が代表して、東京支部の会務報告、会計報告および会計監査報告を行った。

「総会」を終えて一区切りした後は、山田学教授に登壇していただき、「2輪型飛行ロボット(ドローン)の開発と応用」と題して、空陸水万能なドローンの開発の状況とその応用についてご講演いただいた。このドローンは、以前テレビのニュース番組でも「忍者ロボット」として紹介され話題となり、昨年度NEDOの戦略的イノベーションプログラムに採択されて橋梁等の検査ロボットとしても開発が続けられている他、今後さらに見守りサービス分野や農業分野等の様々な分野での応用も期待されている。



ご講演

今回のご講演では、スライドの各所に多くの動画が組み込まれ、機械工学等の専門分野に馴染みのない人でも、開発過程での様々な課題に対する解決の様子をととてもわかりやすくご説明いただいた。また、本講演のために、わざわざ名古屋からドローンの実物を大小2セットご持参いただき、非常に臨場感あふれるご講演であった。

山田学教授によるご講演の後は、会場を模様替えし、「懇親会」を行なった。名工大管弦楽団OBと団友のみなさんによるウェルカムミュージックに出迎えられて会場入りした卒業生各位が、各単科会の名札が置かれたテーブルを囲んだ後、森本晃一副支部長(Es43)の挨拶と乾杯の音頭により懇親会がスタートした。ご来賓、旧友、先輩・後輩との歓談の合間の催し物として、恒例となった楽団OBと団友のみなさんによる演奏に加えて、今年度は、現在の大学の様子を知ってもらおうとの意図で用意した、鶴舞駅から学内に向かう道すがらの写真や、大学から提供していただいた最近の大学トピックスを紹介する動画の映写を行なった。また、90歳を超えて益々お元気な大先輩、水田岩雄氏(C18)と小関健二氏(M18)に登壇していただき、学生当時やその後のご経歴とともにお元気の秘密を披露していただいた。続いて楽団OBの伴奏により参加者全員で校歌を斉唱した後、最後は平成二桁卒の3名が登壇し、彼らの音頭により万歳を三唱して締めくくった。若い人のエネルギーを参加者全員が分けてもらい、懇親会もあつという間に閉会を迎える時間となり、平成28年11月26日(土)に予定されている次回総会での再会を約束してお開きとなった。

記：刑部 道博(D54)



懇親会

北海道支部総会報告

平成27年度北海道支部総会は、11月14日(土)に札幌で15名が参加して開催されました。名古屋工業会本部から水嶋敏夫理事長(M42)、内藤克己常務理事(A43)、森 要一事務局長、大学卒業生連携室より森 聡氏が出席されました。当日は札幌での「嵐」のコンサートと重なり、札幌のホテルというホテルは満室で、4名の方は小樽に宿泊されることになりました。

総会では、水嶋理事長から本年(平成27年)が大学創立110周年、工業会設立100周年であること、大学および工業会の現況について紹介されました。母校より遠く離れた地にいる同窓生にとって貴重な情報が紹介されました。平成28年度より6年一貫教育、5学科体制が始まること、学生がロボットコンテスト、鳥人間コンテストやソーラーカーレースで国内外で活躍していること、工業会がそれらを支援していることが紹介されました。さらに今回(平成27年)第1回のホームカミングデーが開催されること、工業会の会員カードの発行や優待についても紹介されました。

出席者の近況は次の通りです(敬称略)。

佐藤 昌治(M40)： トヨタ自動車北海道を退職後、苫小牧にお住まいで、サンデー毎日の生活を楽しんでおられます。

宮入 紀行(F40)： 卒業後9年間マツダに勤務された後、家業を継ぐため、北海道岩見沢市に戻られました。退職後フィリピンセブ島に移住されて7年間英語の勉強をしておられました。平成26年に日本に戻られました。

高田 忠彦(Y41)： 徳島県のご出身で、卒業後就職で北海道に来られてから50年が経ちました。現在は、会社を立ち上げ、生涯現役でがんばっておられます。

三田村好矩(F41)： 生誕地の中国長春市(旧満州国新京市)に70年ぶりに訪れました。住んでいたところは分かりませんでしたが、日本人が建てた建物が多く残っており、昔の雰囲気を感じて来ました。長春市は人口700万人の大都市になっていました。

水嶋 敏夫(M42)： 卒業後トヨタ自動車(36年間)、トヨタ車体に勤務され、現在名古屋工

業会理事長です。

山平 英夫(C43)： 北海道庁に勤務しておられました。その間11回の転勤をされました。現在は退職され、近くに住んでおられるお孫さんの世話で忙しくしておられます。

秋山 秀雄(Es43)： 電電公社に勤務され、退職後の現在は週5日間ボランティアで小学校の図書館で本の修理などをしておられます。

内藤 克己(A43)： 卒業後清水建設に勤務され、現在名古屋工業会常任理事です。

田上 利明(C47)： 現在、設計測量会社の会長をしておられます。健康維持のため、年間100回を超すゴルフを楽しんでおられます。

及川 善史(M47)： ホクレンに勤務の後、現在はホクレン肥料に勤務しておられます。仙台におられるお孫さんとSkypeでの会話を楽しんでおられます。

佐川 正人(C53)： 清水建設に就職され、平成4年に北海道に転勤されました。退職後は、札幌でISOやmanagementの審査に関する仕事をしておられます。大学時代はワングル部に所属されておられ、現在は、土日にご夫妻で登山を楽しまれておられます。夏には北海道の屋根の大雪山系を縦走されました。

浅野 一郎(C54)： 金沢での勤務の後、札幌に転勤されて3年目です。大学時代は自動車部、麻雀で忙しくしておられたそうです。

大参 智(Y56院)： 今回はじめて総会に出席されました。愛知県安城市のご出身。松下電器セラミック部門に就職され、北海道松下へ転勤されました。56才のとき早期退職され、小樽商科大学ビジネススクール(大学院修士課程)に入学され、修了されました。現在は、同博士課程でエンジニアリングのマーケティングを研究しておられます。

記：三田村好矩(F41)



平成27年度 北陸支部総会、講演会、懇親会の報告

平成27年度北陸支部総会、講演会、懇親会を去る10月24日(土)16時より、富山市のホテルグランテラス富山(旧名鉄トヤマホテル)にて、本部水嶋理事長ご臨席の下、総計28名で開催いたしました。

総会は地元富山県上市町の黒田茂代議員(M47)の司会で行われました。馬場支部長の挨拶、会務収支報告のあと、水嶋理事長ご講演、さらにダイハツ工業株式会社社会長伊奈功一氏(K46)の技術講演をいただきました。

1. 水嶋理事長から名工大、名工会の最近の動向、トピックスなどご講演をいただきました。特に今後名工会が目指す方向のお話の中でも、会員の特典などの具体的なお話があり、支部活動の活性化に資することができることを示唆いただきました。
2. 技術講演会は伊奈講師にテーマ『モノづくりへの想い』と題して熱演をいただきました。伊奈さんは当日の支部総会の幹事森悦次氏(前代議員)のK46同級生同士というご縁もあって、支部としては伊奈講師をお迎えすることは2度目になりました。早朝からの歓迎ゴルフ会のお疲れも見せられず、今回のためにわざわざ初稿された労作『モノづくりへの想い』を使ったスライドショーで大変熱くご講演いただきました。特に核心に迫ったのはトヨタ、ダイハツ時代を経て『自らの立ち位

置の明確化』が必要で『外をよく見ること』すなわちベンチマークは過去ではなく世界だという哲学を披露されたことは感銘を受けました。

3. 懇親会はホテル内和食処『こし路』に席を移し、地元森悦次幹事の司会で記念撮影後、初参加者の自己紹介にもたっぷり時間を取りながら、話題豊富な大変賑やかな宴席となり会員の懇親を深めました。

最後は次回の総会開催地となる福井市の吉岡正盛代議員(B58吉岡幸社長)の開催決意表明と中締めとなりました。

なお、懇親会終了後、理事長伊奈講師とも有志の皆さん十数人はホテル内のバーに席を替えて大いに語りました。

理事長からは再び北陸支部は『個性的な支部』とのご感想もあって、来年のご出席も約束いただいたつもりで、良い意味で更に今後の支部活動に特色のある企画を探って行きたいものがあります。

水嶋理事長を囲んで皆さんの絶好の親交の懇親会となり、支部そして一般社団法人名古屋工業会そして母校の更なる発展を心より願ったことを、支部を代表してここに報告いたします。

皆さま大いに楽しく親睦を深められました。

記：北陸支部 山岸(K33)



平成27年10月24日 富山市のホテルグランテラス富山にて

平成27年度 九州支部例会の開催報告

平成27年度の九州支部例会は、秋たけなわの10月17日(土)に、福岡市博多駅近くの八仙閣本店にて開催しました。

当日は名古屋工業会本部から、理事長 水嶋敏夫 様(機械42)及び常務理事 内藤克己 様(建築43)のお二方をお迎えし、19名の同窓生が出席して開催されました。以下、式次第に従って概要を報告します。

まず、出席者全員による記念撮影、福岡地区担当の永濱幹事による開会のことば、喜多村支部長の挨拶に続いて、支部長による平成26年度活動報告と会計報告及び平成27年度活動計画を諮り、出席者の拍手をもって承認されました。

これより、熊本県から参加された武山 様(金属31)のご発声による乾杯のもと懇親会に入りましたが、ここで水嶋理事長にご挨拶をお願いしましたところ、工業会や大学の近況について丁寧なご説明をいただき、出席者一同、工業会への理解を一層深めることができました。また、内藤常務理事からはかつて福岡に勤務されたことのご紹介があり、幅広く出席者と交流をされ、出席者は工業会を身近に感じたものと思われました。

本部からの挨拶に引き続く出席者による自己紹介と近況報告の場では、それぞれのご活躍の様子が紹介され一同は熱心に傾聴し、相互の交流が図られました。

今年の例会も大いに盛り上がりましたが、最後に学歌「東海の邦のほまれに」を斉唱し、長崎から出席された井出様(生産機械49)の音頭のもと万歳三唱により名古屋工業大学並びに名古屋工業会の益々の発展と皆様の健勝を祈念しつつ、来年の北九州市での再会を約して、また、九州各県からの多くの参加を期待して散会しました。

記：九州支部長 喜多村治雄(機械40)



名古屋工業会 九州支部例会 平成27年10月17日 於八仙閣

平成27年度 名古屋三河支部 ミニ総会&親睦ゴルフ大会報告

さる平成27年10月10日(土)に岐阜県瑞浪市のベルフラワーカントリー倶楽部にて総勢17名に参加いただき開催しましたので報告させていただきます。当日は若干曇りという絶好の天気恵まれて、お互いに日ごろの行いの良さを称え合いながらスタートしました。

結果は、伊藤嘉規氏(D62)がパーティに恵まれ(ご本人談)ネット72.4(グロス88)で優勝並びにベスグロ賞、2位は昨年に続き近藤啓二氏(K52)、3位は佐藤章雄氏(F52)となりました。また4位はネット76.4で同スコア・同ハンディキャップとなる大接戦でしたが、年長者を優先するとの事前申し合わせにより、83歳都筑登氏(E29)が4位に44歳上田貴司氏(D6)が5位となりました。都筑氏のお元氣さには参加者一同感服する次第でした。

ホールアウト後は表彰式に合わせてミニ総会を開催し、名古屋工業会の事業および計画の報告や三河支部役員の任期変更、会員入会の薦めなどを参加者へ連絡させて頂きました。今回、参加頂いた皆様の多大なるご協力のもと楽しい会とできたことを、紙面上ではありますが心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

記：大野 一成(Zk5)



名古屋工業会 三河支部ミニ総会
平成27年10月10日 於：ベルフラワーCC

平成27年度 名古屋支部見学研修会のご報告

去る平成27年10月24日(土)、名古屋支部の見学研修会としてバス旅行を開催しました。旅程は亀岡市の丹波・大石酒造を見学後、同市の湯の花温泉・松園荘保津川亭で昼食を取り、最後に宇治市の世界遺産でもある平等院訪れるというものでした。支部の会員および御家族の皆様で総勢90名以上の参加者があり、大変に賑やかな会となりました。

始めに訪れた大石酒造はおよそ300年前の元禄年間に創業した老舗の造り酒屋で、酒蔵の見学や「酒の館」という資料館で昔の酒造りの道具などを一般公開していました。当日は仕込み作業はしていませんでしたが、資料からその様子を垣間見ることができました。その後、松園荘保津川亭に場所を移し、加川支部長のご挨拶の後乾杯の合図で昼食を頂きました。そのあと時間は短かったのですが温泉に入って日頃の疲れを癒すひとときを過ごしました。ちなみにバスガイドさんの話では、市の名称である「亀岡」というのは、明治の頃に三重県の「亀山」と混同するという理由で、それまでの「亀山」から「亀岡」に改称されたそうです。思わぬところで東海地方との縁を感じました。



写真1. 大石酒造「酒の館」



写真2. 湯の花温泉、松園荘保津川亭

食事後は、最後の立ち寄り先である世界遺産の平等院を訪れました。平等院鳳凰堂は平安時代より現在まで存続する建築物で、最近では平成24年から平成26年まで大修理が行われ、平成26年10月に落成式が行われたばかりです。現在の鳳凰堂はたいへんにきれいな朱色に塗装され、古の平安の世に思いを馳せることができました。少し残念であった点は、渋滞などで平等院への到着がかなり遅れてしまったことと、鳳凰堂の拝観人数の制限もあって堂内の阿弥陀如来坐像を間近で拝観することができなかったことです(拝観を楽しみにされていた方々にはこの場を借りてお詫び申し上げます)。その後は帰路につきましたが、帰り道でも渋滞に掛かってしまい予定より1時間以上も遅れて名古屋に到着しました。ただ、無事に帰って来られたのはご参加下さいました皆様のご協力の賜とあらためて心より感謝しております。

今回の見学研修会は渋滞に悩まされた旅行になってしまいましたが、来年度に向けての反省点として、次回はより楽しめる企画を考えたいと思います。

記：名古屋支部庶務 栗田 典明(K60)



写真3. 昼食時の加川支部長挨拶(昼食会場全景)



写真4. 集合写真「平等院鳳凰堂」前

大阪支部・和歌山部会開催報告

大阪支部では4年に1度の持ち回りで開催している地方部会であるが、今回は和歌山の山間地を襲った台風による水害対応のため幹事さんが多忙により開催出来なかったため、今回は8年目となる和歌山部会の開催となりました。

今回もおりしも開催中の「2015紀の国わかやま国体」の真っ只中で幹事さんのお忙しい中の開催となりましたが、去る10月23日(金)午後5時から昼間に開催された大阪支部の花王・和歌山工場さんの見学会の後を受けて、「がんこ和歌山六三園」に25名の方々が集まりました。

「がんこ和歌山六三園」は大正から昭和初期にかけて活躍した「北濱の今太閤」と呼ばれた松井伊助氏が建てた邸宅で、その後当時の和歌山銀行の社長の尾藤家の所有となったもので、二千坪の敷地には四季の移ろいが楽しめる回遊式庭園の他に十ヶ所の建物が登録有形文化財の指定を受けているという名園であります。中でも玄関先にある「ライオン石像」は大阪中之島にかかる「難波橋」の袂にあるライオン像と兄弟といわれ、一見の価値があります。折角の機会なので、部会の開始に先立ち本園の見所を若女将から紹介してもらいました。

部会の冒頭はミニ講演として、和歌山市の語

り部さんである杉本早苗氏から「紀淡海峡に浮かぶ無人島：友ヶ島」と題し、かつては砲台の島でもあった友ヶ島の四季の美しさを語って頂きました。

その後部会次第に入り、木越大阪支部長の挨拶の中で、そもそも大阪支部の地方部会制度はここ和歌山に始まり、当時の窓口がこのあと乾杯の音頭を取られた和歌山県庁ご在籍のC49の原 広之氏だったというエピソードも紹介された。部会長でありこれも和歌山県庁にご在籍のC57の東 照久氏からはそのお仕事に関連するお話として、想定される「南海トラフ大地震」の際にはここ和歌山が直面することになるので、その対応等のお話を頂き歓談に入りました。

歓談後中締めを前に、和歌山部会の会員さんの自己紹介など和やかな雰囲気の中、閉会となりました。

思えば今年は大阪支部としても和歌山との縁があり、「春期歴史探訪の会」では南紀白浜に“知の巨人”と謳われた南方熊楠翁の跡を訪ね、「秋季歴史探訪の会」では開創1200年の高野山を訪ねることとなりました。

記：大阪支部・地方部会担当 藤原康宏(E36)



大阪支部秋季見学会：花王株式会社見学会報告

大阪支部平成27年度秋季見学会として、10月23日(金)午後1時30分より花王株式会社エコラボミュージアム及び和歌山工場の見学会を開催いたしました。

最近、大阪支部見学会は名工大の卒業生が関わる関西地区の自動車、空調、鉄鋼等の主要メーカ及びあべのハルカス等の話題のビルの見学会が続いていましたが、久しぶりに化学メーカの見学会となりました。

D科・G科・W科等の化学系OB他20名の参加者がエコラボミュージアムで館長からの1時間の講演を拝聴し、館内ではタブレットを使用した参画型の展示によって「花王の研究開発と環境への取り組み」を見学しました。又、広大な敷地に設置されたプラント設備の行き届いた整理・整頓さに驚くとともに組み立て工場では、日頃、使い慣れた衣料用洗剤「アタック」や住居用洗剤「マジックリン」などが高速でパッキングされていく製造ラインを見学しました。

該社はここ35年で売上高が約6倍に延びた日本を代表する化学メーカですが、従業員の約半数が研究・開発に関わり基盤技術研究を非常に大事にされているとの事でした。説明役の館長からも欧米系の同業他社には負けないとの強い自信が感じられました。

質疑応答では・該社のロゴの意味・グローバル展開・研究開発から商品化への移行手順・再生可能油の入手性から自然保護との関わり・原料調達から製品の使用、廃棄までのLCA（ライフサイクルアセスメント）の観点からの環境への取り組みの実績等、幅広い討議が行われ、一部参加された現役の技術屋にも大いに有意義な見学会であったと感じる一時でした。

見学会終了後全員が同日、開催された大阪支部和歌山部会に合流し、「がんこ六三園」での懇親会終了後帰路に着きました。

記：加藤 修(K48)



平成27年 大阪支部「秋季歴史探訪の会」開催報告

(弘法太師・空海の開創1200年を迎えた聖地・高野山を探訪する)

今回の探訪行は平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録、また弘法太師・空海が開創して1200年とあって大賑わいの天空の宗教都市・高野山を訪ねた。去る11月14日(土)、総勢34名(内、ご夫婦7組)が、曇り空の大阪を南海電鉄の特急「こうや」号にて出発。ご参加者の中には今回も千葉・松戸市からの西田公也氏(K44)もおられて、幹事として遠方はるばるのご参加に先ずは感謝。

沿線の紅葉を愛でながら、途中「橋本」を過ぎると途端に山岳列車の趣になり、急勾配を緩々と登りながら、その名も「極楽橋」に到着。ここでケーブルカーに乗り継ぎ、5分ほどで標高900メートルの高野山の玄関口「高野山」駅に到着。山上バスに乗り替え、一山の総本山「金剛峯寺」へ。国内外の高野山真言宗の総元締めとして四千ヶ寺の末寺を持つという大主殿は幅54メートルの堂々とした建物で、落雷等の火事に備え屋根の上に大きな天水桶が置かれているのが眼を惹いた。落ち合ったガイドさんと寺内へ。寺内は何れも有名な絵師の手になる障壁画に囲まれた座敷の数々があるが、中でも歴史に名高い豊臣秀吉の甥、秀次が自刃した「柳の間」や雲海に見立てた白砂に屹立する雌雄一對の龍の巨岩を囲む140個の青い花崗岩の数々が見ものの石庭「蟠龍庭」は日本最大といわれるだけあって見事なものであった。寺を後に紅葉に染まる「蛇腹道」を「壇上伽藍」へ向かうと、ひときわ大きく朱塗りの二層の塔が出迎えてくれる。これが「根本大塔」で真言密教の根本道場として建立されたもので、創建以来何度も火災に遭い、現在の建物は1937年に建立されたもの。その内部は中央に大日如来、四方に金剛界四仏、周囲の16本の柱には堂本印象画伯の手になる十六大菩薩を配した曼荼羅の世界を立体的に顕したものだそうです。その他大小の堂塔を拝観した後「金堂」へ、ここは一山の総本堂として重要な役割を果たしていますが、度重なる火災によって現在は7度目の再建で1932年に完成したもので、A科の岡崎氏によると名古屋高等工業時代の校長であった武田五一氏がその設計に関わったそうで、全員、先輩の偉業に敬意を表すことしきりであった。この金堂の前に建つ「中門」は、開創1200年を記念して172年ぶりに再建されたもので、威容を誇っていた。「壇上伽藍」の拝観の後はお楽しみの昼食会場 宿坊「本王院」さんへと向かった。大広間にずらりと並んだ朱塗りのお膳は

三の膳つきの本格的な精進料理で、肉食を禁じた戒律の中、工夫を凝らして一品一品丁寧に仕上げられた、ごま豆腐や旬の野菜の天ぷらなど素材の味を生かしたご馳走の数々に目と舌を十分に満足させられた。数人の若い修行僧達がお飯やお茶のお代わりにキビキビ立ち振舞う様子も、一般の寺院と違って敷居の低さを感じたものです。食事後「写経組」はその足で本堂で「般若心経」を唱えて心を整えたあと写経場へ。心静かに写経された各人の「般若心経」一巻はご本尊の前に奉納された。別の「霊宝館拝観組」は少し離れた「霊宝館」へ、一山に伝わる国宝、重要文化財の数々を収蔵し一般に公開している平等院鳳凰堂を模した建物です。

今回は開創1200年を記念して、平素は「金堂」に安置されている密教の世界を具現化したと言われる「両界曼荼羅」、俗に「血曼荼羅」といわれる曼荼羅図を身近に拝観できました。その後、両組は奥の院口で合流して杉木立に囲まれた約2キロの参道を行くと、その両側には20万基を超える墓碑の数々が立ち並び、ガイドさんにその主だった一つ一つを説明してもらった。かつては敵味方に分かれて争った戦国武将たちが一所に鎮まっている様は、大師信仰の厚さが伺えるものだった。雨がポツリポツリと降り出し一層荘厳さを増した参道を辿ると御廟橋に、ここを渡ると弘法大師の御廟地である。数万とも云われる燈籠を灯した「燈籠堂」の裏手に回り、未だお大師様が生きて瞑想されていると信じられている御廟の前で、ガイドさんの発声で全員が「南無大師遍照金剛」「々々」と三回声をそろえて唱えてお参りをすませた。その後、両側に企業の墓地などが立ち並ぶ別の参道を経て奥の院前でバスに乗り、高野山駅へ。駅の屋上の展望台からは、眼下にあるはずの紀ノ川や橋本の地が幻想的な雲海に沈んでいる風景を見届け、帰阪の途に着いた。

記：藤原康宏(E36)



平成27年度 NTT名工会総会開催報告

去る10月30日(金)に、恒例のNTT名工会総会を栄の名古屋国際ホテルにて、24名の参加により和やかな雰囲気で開催しました。

1. 総会

事務局より平成26年度事業報告と決算報告があり、引続き平成27年度役員選出を行い、会長のNTT西日本(株) 京都支店営業部長 田中敦氏(E63)を始め、全員が満場の拍手にて承認されました。

2. 講演会

特別講師として、母校の水野直樹教授(M53:機械工学科創成シミュレーション工学専攻)をお迎えし、『学生の連携でここまで到達—ロボコンに見る高度技術と母校評価への貢献—』と題して御講演頂きました。

昨年度日本代表となり一躍注目を浴びた親子ロボット、今年度のバトミントンロボット等に

ついて、ビデオを交えた臨場感あふれるご講演でした。新たな機構や制御方式、要素技術等の開発からロボット作成に関するご苦労や熱意、常に高い技術完成度を追及する姿勢等、後輩諸氏の活躍に接し大変誇らしい気持ちになりました。

3. 懇親会

田中敦会長の開会挨拶の後、新たに副会長に就任された浅野達氏(FB⑦)の乾杯のご発声により開宴となりました。

先ほどの御講演への質疑・意見交換をはじめ、公私に関わる近況報告、各職場での仕事や最近の社会情勢等、職場を越え世代を越えた話題に花が咲きました。その後、恒例の学歌「東海の邦のほまれ」を斉唱し、今回ご出席の先輩を代表して中村勝氏(C43)の「気」を込めた締めにより、来年の再会を誓い散会としました。

記：大竹 昌志(C54)



第23回ごきそ会展（名古屋工業大学OB美術展） 2015開催

本学卒業の美術を愛好する仲間が集まり毎年名古屋で美術展を開催しております、今回で第23回を迎え10月27日(火)から11月1日(日)まで名古屋の伏見にある電気文化会館5階の東ギャラリーで開催いたしました。今年も約700名余の多数の方にご鑑賞をいただき好評のうち無事終了することが出来ました、ご来場の皆様に心から感謝を申し上げます。

今年の出展者数は17名で点数は90点と例年になく多く、新しく昭和41（機械）卒の村上健一さんと平成9年（機械）卒の野田敏生さんのお二人に参加いただき、また野田さんには立体物も出展いただき会場の雰囲気に変化が出来、皆様から大変高い評価をいただきました。それに伴い今年からサブタイトルの絵画展を美術展に変更させていただきました。今後も充実した美術展を目指し、本学のPRにつなげればと思っています。

今年は新しい方に加わっていただきましたが高齢化が進んでいます、多数の方のご入会（特に若い方）を期待しておりますので、ご入会希望者や絵を描いている方の情報を下記事務局までご一報くださいますようお願い申し上げます。

次回は平成28年11月15日（火）から11月20日（日）まで同じ場所で開催予定です。是非沢山の方にご高覧いただきますようお願い申し上げます。

記：福田一豊（A36）

今回の出展者名

清水 昭夫 (A26)	富田憲次郎 (A29)
神谷 義夫 (A31)	栢本 良三 (A31)
本田 暎幸 (D33)	清水 昭 (A34)
山田 銑一 (K34)	伊藤 禎治 (A35)
枋尾 宗昭 (A35)	脇田 芳明 (A35)
福田 一豊 (A36)	平川 史朗 (A38)
木戸 真人 (A40)	高橋 秀郎 (M41)
村上 健一 (M41)	吉田 昭博 (M41)
野田 敏生 (M 9)	

連絡先 事務局 福田 一豊

〒465-0053 名古屋市名東区極楽2-184

TEL : 052-702-1504 FAX:052=702-0097

E-mail : k_fu@d2.dion.ne.jp



会場風景



会場での集合写真



謹賀新年

平成28年元旦

名古屋支部

〔平成27・28年度主担当単科会名品会〕

支部長	加川純一	K49
副支部長	川北高生	K49
庶務会計幹事	栗田典明	K60
庶務	小坂井孝生	K49
同	横山雅行	K52
同	堀尾順一	K52
同	山中諭	K56
同	前田千芳利	K57
同	小山敏幸	K61

〔単科会代表連絡幹事〕

C E 会	和田亮一	C 62
光 鮫 会	杉浦俊幸	A 38
巴 会	杉山耕一	M⑥
電 影 会	三宅正人	E 60
双 友 会	泉地正章	W44
緑 会	大橋聖一	D45
名 窯 会	多賀茂	Y 62
名 晶 会	平野春好	K 50
計 測 会	大鑄史男	F 49
経 友 会	仁科健	B 50
情 友 会	松尾啓志	J 58

事務局 〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4
名古屋工業会内 ☎(052)731-0780

東京支部

支部長／副理事長	C 42	坂井充
副支部長／代議員	Es43	晃一人
副支部長／代議員	M47	明交広
代表常任幹事／代議員	A 63	松浦宏
相談役／顧問	C 33	石田金
相談役／顧問	D 33	川田章
相談役／顧問	E 36	横田征一
相談役／顧問	D 41	小部完
相談役／顧問	M 43	阿部吉
相談役／顧問	Es42	張田昭
顧問	W38	平手孝
顧問	E 39	倉島俊
顧問	D 51	加藤勝
顧問	W33	松居和
顧問	D 45	飯田秀
顧問	K 46	堀井定
顧問		阪人

常任幹事／代議員

D45	鈴木雄
C48	檀恒次
K50	細谷弘
F52	小川一郎

常任幹事

C55	松田繁
D54	刑部道
D57	大久保智
M45	小野純
M55	戸澤尚
E44	井上憲
E⑬	三浦太
A47	平松朗
Y40	日沖充
W43	印藤昭
B50	佐藤嶺

幹事

C44	川島泰
C53	瀬尾健
C56	名倉良
D35	濟木二
D38	三山敏
D44	岡本一郎
D①	馬場順
E36	木下彦
Es46	山田清
M49	福間吉
A55	一瀬洋
K53	北村賢
W56	波多明
Y42	清野弘
F45	松建
B43	近藤新

北海道支部（北鮫会）

支部長 三田村 好矩（F41）

代議員 秋山 秀雄（Es43）

三河支部

支部長 岩月 幹雄（K56）

幹事 大野 一成（Zk5）

東北支部

支部長 斎藤 文伸（A51）

事務局 〒982-0821 仙台市太白区松が丘3-22
☎&FAX 022-228-0685

尾張支部

支部長 音無 通男（W41）

平成28年度支部総会は名古屋文理大学
文化フォーラムで4月16日（土）に開催します。

静岡支部

支部長 山之上 誠（C49）

代議員 藤井義麿郎（Es49）

代議員 榊原 学（F48）

事務局長 森 佑司（A52）

静岡支部役員一同

北陸支部

支部長 馬場 清和（M44）

平成28年度支部総会は10月に福井市にて行います。
皆様のご出席をお待ちしております。

大 阪 支 部

支部長／本部副理事長 C 44 木越 正司
副支部長 * E 36 藤原 康宏
副支部長 * E 48 三木 敏裕
副支部長 * A 46 岡崎 格郎
副支部長 * G 52 田中 耕嗣

総務委員長 D 51 佐野 義和 同副委員長 C 59 堀口 大輔
事業委員長 E 48 三木 敏裕 同副委員長 G 50 西川 嘉一
会員増強委員長 * A 46 岡崎 格郎 同副委員長 B 50 出口 貴通
若手・女性部委員長 C 55 小西日出幸
地方部委員長 E 36 藤原 康宏 同副委員長 B 50 出口 貴通
技術士部会 M 39 山本 泰三 同副委員長 D 41 末利 鏡意
財務委員長 G 54 大貫 雅彦 同副委員長 C 52 福井 広行
単科会連携委員会委員長 A 46 岡崎 格郎 同副委員長 K 58 邊田 好則
監 事 B 42 布施順之助 * A 51 玉水 新吾

単科会支部長 C 47 西川 芳久 単科会支部長 Y 40 片岡 宏治
単科会支部長 A 55 宮本 和則 単科会支部長 K 48 加藤 修
単科会支部長 M 45 掛田 健二 単科会支部長 F 55 坂尾 健司
単科会支部長 E 47 川越 英二 単科会支部長 B 42 布施順之助
単科会支部長 W 42 長江 正純 (以下役員16名は空白)
単科会支部長 G 50 西川 嘉一 * は本部代議員

地方部会幹事

和歌山県 C 57 東 照久 C 53 向井直樹 SC⑦ 井原誉文
奈良県 G 50 西川嘉一 C 52 福井広行
滋賀県 A 46 福永忠昭 M 45 伊藤俊明
京都府 D 45 西村源四郎 D 45 駒田周美 M 58 筒井真作

三 重 支 部

支部長 北川 貴志 (C 50)

三重支部メールアドレス

Mail : miegokiso@nagoya-kogyokai.jp

岡 山 支 部

支部長 宮崎勝秀 (A 45) 幹 事 岡本研作 (Y 54)
代議員 野村幸宣 (C 54) 浜野弘史 (Es 56)
代議員 虫明正博 (K 59)
幹 事 中村浩巳 (A 54) 事務局
石井敏典 (G 47) 〒701-0113 倉敷市栗坂467-22
斉藤 実 (C 55) 虫明産業(株)内

広 島 支 部

支部長 菱 川 躬 行

事務局 〒735-0015 広島県安芸郡府中町青崎東8番49号
株式会社システム総合研究所
☎ 082-284-5630

兵 庫 支 部

支 部 長 高 瀬 陽 太 郎 C 55 兵庫県庁
副支部長 當 舍 良 章 C ③ 兵庫県庁
事務局 西 前 田 芳 久 C 47 神戸環境メテオス
局長 青 田 多 津 夫 A 38 元・三菱重工業
監査役 山 野 信 尹 C 46 元・(株)神戸製鋼所
顧問 秋 山 敏 郎 C 33 元・兵庫県庁
幹 事 楠 田 好 修 三 A 50 兵庫県庁
三 羽 倉 昭 二 C ⑨ 兵庫県庁
西 川 芳 久 C 47 神戸市役所
一 宮 誠 M 61 神戸環境メテオス
多 田 篤 志 E ⑬ 神戸環境メテオス
上 村 芳 大 M 55 川崎重工業
武 藤 崇 史 EJ ② (三菱電機
弘 津 健 二 J 63 (一般・東)
加 藤 恵 之 K 44 三菱重工業
白鷺特殊鋼
(一般・西)

【本 部】

代議員 H27年度 高瀬陽太郎 C 55 兵庫県庁
同上 當舍良章 C ③ 兵庫県庁
参 与 同上 楠田修三 A 50 兵庫県庁

香 川 支 部

支部長 細 谷 芳 照 (C 53)

代議員 浅 野 啓 三 (F 60)

九 州 支 部

支部例会には皆様のご出席をお待ちしております。
平成28年は10月に北九州市で行います。

支 部 長 喜多村治雄 (機械 S 40) TEL 0940-33-6114
副支部長 安達 高春 (建築 S 46)
事 務 局 永濱 伸介 (経営 S 63)
事 務 局 中松 智明 (情報 修 H 22)



トヨタ車体株式会社

相談役 水嶋 敏夫 (M42)

〒448-8666 刈谷市一里山町金山100番地

TEL (0566)36-7500

URL <http://www.toyota-body.co.jp/>

株式会社 TYK

代表取締役会長 牛 込 進 (Y33)

浅井翻訳事務所

浅井 利夫 (E31)

〒227-0038 横浜市青葉区奈良3-10-21

TEL 045-961-6216 FAX 045-960-1396

E-MAIL JBA00531@nifty.com



TOYODA GOSEI

豊田合成株式会社

〒452-8564 愛知県清須市春日長畑1番地

TEL:052-400-1055 FAX:052-409-7491

URL:<http://www.toyoda-gosei.co.jp>

SAKURA SOFT HOUSE



株式会社 サクラソフトハウス

中小企業様のIT支援を承ります。

★★ 業務システムの構築・改善

★ ホームページの作成 Webサイトの構築

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4 名古屋工業会館4F

TEL 052-735-3171 FAX 052-735-3172

E-mail : sakurash@na.rim.or.jp <http://sakura-info.net>

総合印刷の 栄光社



有限
会社

〒466-0014 名古屋市昭和区東畑町一丁目42番地

TEL <052> 741-7701 (代)

FAX <052> 741-7703 番



名古屋工業大学生協同組合

専務理事 稲吉 顕吾 (EI②)

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL<052>731-1600 FAX<052>731-8726

E-mail : inayoshi@nitcoop.or.jp

名古屋工業会のHP 会員限定ページについて

会員限定ページをご覧ください際には

パスワード入力が必要となります。

【パスワード:gokiso5298】

平成28年度 一般社団法人名古屋工業会 会員総会開催予告

日 時：平成28年5月21日（土）14：00～

場 所：中日パレス 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1中日ビル5F

TEL 052-261-8851

会員総会：14：00～15：00

特別講演：15：30～16：45

懇親会：17：00～19：00

※なお、代議員による定期総会は12：30から開催します。

詳細は次号でお知らせします。